

第三章 関東大震災

第一節 被害状況の報告

三〇 神奈川県下の被害状況一覽表

郡市別	震災当時の世帯数	被		害		世		帯		数		現世帯百に付被害世帯数	内焼失世帯数
		全	半	全	半	流	以上計	破	合	計			
横浜市	二四、三〇〇	六、八四四	一四	四、七九	五、八九	四三	一、六七三	六、五五	三、七三六	六・五	三〇・〇	六・七	
横須賀市	九、八四〇	六、〇八八	—	九、八〇〇	一〇、七三三	—	八三、一四〇	一、二七三	四、八七三	九五・〇	—	—	
郡計	一七、〇〇〇	二、〇九四	—	一、七六	四、三三五	—	八、三〇〇	六、〇五八	一四、四八八	八四・〇	—	—	
久良岐郡	一、七四五〇	三、九三三	—	三、五六	三、七三三	—	七、四四	五〇、七五	二八、六八	八・四	—	—	
橋樹郡	三、三三〇	—	—	八、五	七、七	—	一、五三	一、四六	三、二二	九・四	—	—	
都筑郡	三、一六〇	—	—	四、八三九	六、六九	—	一、六五六	一、四七三	三、四三	七・七	—	—	
三浦郡	七、三三〇	六	—	三、三	七、六	—	一、一七	四、一五九	五、三三四	七・八	—	—	
鎌倉郡	〇、五七〇	一、五	—	五、八	三、一三	—	五、九三	七、三〇	一三、五二	六四・四	—	—	
高座郡	三、九九〇	一、七〇	—	四、〇二二	三、七六	—	八、五二	五、〇四七	一三、五九	九六・九	—	—	
中郡	一、九、〇〇〇	—	—	五、五四九	四、七六	—	一〇、三三	七、一八	一七、〇一	九・二	—	—	
足柄上郡	二、九五〇	二、六四	—	七、七	七、〇二	—	一五、一	四、九四	二〇、〇一	八七・五	—	—	
足柄下郡	一、八、〇〇〇	一、九	—	三、〇七	三、九二五	—	二四、〇〇九	二、三三六	二六、三三六	九九・五	—	—	
愛甲郡	一、六、〇〇〇	二、五二	—	六、二七	五、八六	—	一四、六四六	二、一四一	一六、七八	九九・三	—	—	
津久井郡	七、三〇〇	二、五七	—	九、六	七、五	—	二、〇一九	二、二六	四、二六	六〇・〇	—	—	
總数	五、四九〇	—	—	八、七	二、五	—	三、七	一、三三	一、七六	三三・一	—	—	

郡市別	震災当日 口ノ現在人口	罹災者						現在人口 百ニ付罹災者	罹災者百 ニ付死者	
		死	行方不明	重傷	軽傷	全焼半焼全 潰半潰流出	破損			合計
横 濱 市	四一、六〇〇	二、三四	一、九一	三二四	七〇九	三、八二五	五、〇八九	四三、三〇七	九・一	五・七
横 須 賀 市	七四、五〇〇	七三	三六	三七	九四	三、四八八	三、五八八	六三、〇五八	八・三	一・三
郡 計	八六、九〇〇	七、四八	三六	二七五	九三八	四、八二六	三、六四〇	七四、七六	一・一	一・一
久 良 岐 郡	一九、〇〇〇	一、九	三	三〇	四	九〇九	八、二二	一七、五二	九〇・三	一・一
橘 樹 郡	一七、一〇〇	一、八五	三	四一	一、〇六九	五、九三七	六、〇八九	二四、〇三	七五・七	〇・五
都 筑 郡	四二、七〇〇	一〇	三	三	三	六、六五九	三、五三	三三、四〇	七五・九	〇・五
鎌 倉 郡	一〇六、一〇〇	七五	三	三三	四三	二、九七〇	三、八三三	六九、四七	六五・四	〇・三
高 座 郡	一五、八〇〇	五五	八	二六	八八	四、三九五	一、七五四	一五、四八	九七・七	一・三
中 郡	二四、一〇〇	一、三五	三	四六	八八	六、七四九	二、六〇三	一〇三、八四	八九・七	〇・六
足 柄 上 郡	四八、三〇〇	三三	八	一七〇	三三	三、三三	三、〇二	四六、九七	九三・三	〇・五
足 柄 下 郡	九三、四〇〇	一、七七	七	一六四	一、二四一	七、五二五	一、二六八	九〇、八五	九三・三	〇・三
愛 甲 郡	四〇、〇〇〇	五九	一	四	三	一〇、三三	一、一九三	三三、三三	五八・三	〇・三
津 久 井 郡	三二、七〇〇	一四	五	八	四	一、八九	八、〇六	一〇、〇九	三三・八	一・四
總 数	一、三七八、〇〇〇	二九、六四	三、四五	六、一六	一、三三六	七、八、四九三	三、四三、二五	一、二七五、二二三	八五・二	二・七

(「神奈川県震災誌」神奈川県庁蔵)

三三 神奈川県下震災状況に関する県知事安河

内麻吉の報告(二一四)

(一)

大正十二年九月三日午後七時報告

神奈川県知事 安河内麻吉

内務大臣子爵 後藤新平殿

震災ニ関スル報告(第一報)

横浜市ニ於ケル本月一日ノ震災ハ全市火ノ海ト化シ市民ノ若干カ身ヲ以テ難ヲ免レ其慘禍タルヤ到底夢想タモ為シ能ハサル底ノ悲惨事

ニシテ一瞬ニシテ天空冥蒙骨肉相分レ死生ヲ異ニスルカ如キ状態ナリ然モ全市ノ震災ハ時恰モ陰曆二百十日ノ厄日ニ際セシ烈風火ヲ吹キ火焰ハ瞬間ニシテ全市ニ拡大シ避難民ハ殆ト行ク処ヲ知ラサラムトス仍テ身ヲ以テ難ヲ免レタル当庁員ヲ以テ臨時救護所ヲ横浜公園ニ移シ警察部長ハ警察部ノ巡查ヲシテ各署長ニ非番巡查ノ非常召集ヲ命シタルモ公園集落地ニ集合スルニ先タチ已ニ諸所ニ発生シタル震火ハ交通ヲ杜絶シ集合自由ナラス然モ余震ハ絶エス繼續シ揮発物爆発物ハ巨彈ヲ放ツカ如キ音響ヲ続発シ空中爆発管飛散シ殆ト戦争状態ト何等異ナルコトナク為ニ市民ハ人心恟々トシテ殆ト死生ヲ知ラサルカ如キ不安ノ間ニ夜ヲ徹シ警察官モ亦タ殆ト不意ノ天災ニテ如何トモ手ヲ施スベキ手段ナク辛フシテ警察官ヲ以テ避難民ヲ保護警戒セシムルト共ニ負傷者ニ応急手当ヲ施シタルモ材料及医師乏シク遺憾ノ間ニ天明ヲ待ツ当夜ノ市民ハ付近公園広場又ハ高台等ヲ避ヒ万一ノ饒倖ヲ冀フテ避難シタルモ逃速ヒタルモノ不勘而シテ当夜ノ避難民ハ市公園ニ約五万掃部山伊勢山ニ約一万本牧三溪園付近磯子方面久保山等ニ約一万宛アリ其ノ他互ニ先ヲ争フテ適所々ニ難ヲ避ケタル者尠カラサリシモ震火ノ拡大急速ナリシ為メ各々其ノ適所ヲ得ルニ苦ミ右往左往シツ、黒煙ニ巻カレ若クハ焼灼ニ堪ヘスシテ河中ニ身ヲ投シ溺死シタル者実ニ勘ナカラズ其ノ慘状タルヤ実ニ筆

紙ニ尽シ難シ被害程度ハ其ノ慘禍甚大ニシテ調査スル能ハサルモ戸数八万五千中殆ト九分焼失又ハ倒潰シ死者約十万傷者無数ナルベシト思料セラル而シテ官公署ノ如キ殆ト一トシテ存立スルモノナシ横浜地方裁判所長及検事正代理福鎌検事其他判檢事税関郵便局ノ高等官中ニモ多数ノ死者アルベキモ未タ判明セサル者多シ震災一度到リ余震尚去ラス海嘯來襲ノ謠言盛ニ行ハレ又不逞鮮人暴行略奪凌辱等ノ風説行ハレ人心安定セス然モ其ノ間生死不明ノ家族力互ニ之ヲ搜索スルモノ、状態ハ殆ト現在ニ於テ再ヒ見ル能ハス隨時隨所ニ起レル哀話悲語ハ流涕聽クニ堪エサルコト而已ナリ然モ他面県下郡市ノ状勢ハ交通通信ノ杜絶ニ依リ之ヲ知ル能ハサルモ県下到ル処其ノ慘禍ノ激甚ナルハ想像ニ難カラス差当リ人心ノ安定食料ノ給与ハ最モ急ヲ要スルモ当市中ヨリ需ル能ハス水道ハ断水シテ市中殆ト水ヲ得ル能ハズ濁水ヲ飲ンテ僅カニ飢餓ヲ医スルニ過キス止ムナク横浜船渠会社ノ貯蔵米ヲ解放シテ之ヲ罹災民ニ供与シタルモ何分飢餓ニ頻セル罹災民ハ平穩適切ナル分配ヲ受クル能ハサルモ罹災民ノ共同生活の感念(マヤ)ニ依リ幾分ツ、ハ之カ配給ヲ受ケタルカ如シト雖モ食料問題ハ時々刻々ニ其ノ必要ニ迫ラレツ、アリ依テ庁中ヨリ職員ヲ簡拔シテ陸軍大臣第一師団長ニ出兵ノ要求ヲ為シ兼テ貴官ニ口頭ヲ以テ報告セシメタル通りナルカ震災ノ翌二日ハ人心ノ安定(不脱)ヲ除去スル能

ハス各所ニ揭示シテ流言蜚語ノ打消シ罹災民ノ救助傷者ノ応急処置ニ努メ一面物資ノ来着ヲ待ツヨリハ寧ロ物資ノ需給上可能性ヲ有スル郡部ニ避難スルノ得策ナルヲ力説シテ漸次避難セシメツ、アルモ何シロ交通杜絶市民ハ疲労困憊シタルヲ以テ意ノ如クナラス止ナク船舶ヲ徵発シテ静岡及阪神地方ニ輸送ヲ開始セムト欲シ努力中ナルト共ニ当港碇泊船これや丸ノ無電ヲ利用シ大阪兵庫両府県知事ニ糧食ノ配給ヲ依頼シツ、アリ

右及申報候也

(一)

大正十二年九月三日

神奈川県知事 安河内麻吉

内務大臣子爵 後藤新平殿

震災状況報告〔統報〕第二報

爾来人心恟々トシテ不安ノ状態ニ在ル横浜市ハ本三日午前十一時駆逐艦ニテ赤坂第一連隊中隊長正本雪儀少佐ノ率ユル兵員百十名〔外ニ鳩班二名鳩二十羽〕上陸次テ午後二時四十分習志野騎兵第十五連隊長九野尾順太郎大佐ハ騎兵二百五十名ヲ引率シテ到着午後三時軍

艦山城ヨリ陸戦隊二小队上陸直ニ別紙個所ニ配備シタル為メ市民ハ稍々安堵ノ色アリト雖モ市ノ外圍部落ニハ朝鮮人ノ来襲説盛ニシテ未タ全ク安定セス軍隊ノ来援尚一層必要ナルヲ認メツ、アリ

右及申報候也

(別紙)

軍隊配置個所

(一) 食糧飲料水配給場所

一 高島倉庫

一 新山下町

一 八幡谷戸

(二) 食糧品倉庫所在地

一 横浜ドック

一 神奈川横浜船渠

一 横浜税関〔三菱倉庫及付近ニ物資ヲ積メル船舶モ含ム〕

(三) 現在家屋所在地

一 藤棚付近浅間町程ヶ谷方面〔火薬製造会社モ含ム〕

一 磯子方面〔爆発物貯庫ヲ含ム刑務所付近共〕

一 本牧方面〔根岸〕

一 神奈川三ツ沢方面

一 弘明寺蒔田方面

(四) 罹災者集団ノ主ナルモノ

一、横浜競馬場

一、一本松ヨリ掃部山ニ至ル地点

一、横浜公園

一、山手公園

大正十二年九月五日

(三)

神奈川県知事 安河内麻吉

内務大臣子爵 後藤新平殿

震災ニ関スル概況報告続報〔第六報〕

横浜市ノ概況ニ就テハ曩ニ報告ニ及置候処尚横須賀市外各郡ノ概況

左記ノ通ニ有之候

一 横須賀市

全市ハ全戸数約二万一千八百戸ノ処之カ被害ヲ受ケサルモノハ約百五十戸ニ過キスシテ而モ之等ハ孰レモ倒潰又ハ半潰ナリ而シテ夫以外ノ戸数約四千戸ハ震災ト同時ニ四個所ヨリ発生シタル火災ノ為焼失シ本日迄ニ発見シタル焼死体ハ約四百五十個尚続々発見シツ、アリテ其ノ慘状筆紙ニ尽シ難キ状況ニシテ真ニ阿鼻叫喚其ノ極ニ達ス又焼失家屋ノ重ナルモノハ海軍病院海軍機関学校海

兵団及横須賀郵便局等ニシテ全ク全市軍港ノ全滅ト謂フベキ状況

ニ有之候

二 都筑郡

全郡ハ郡部タル關係上稍々其ノ被害ハ輕微ナリト雖モ尚且死者一五名重軽傷一三名全潰家屋一八六半潰一三二ニシテ幸ニ火災ノ起ラサルハ不幸中ノ幸ニシテ唯郡民ハ余震続発ト共ニ海嘯ノ襲来ニ人心不安ノ念ニ驅ラル、際不逞鮮人ノ襲撃説ハ一層民心ヲ脅威セシメ為メニ在郷軍人及青年団員ハ拳テ之カ警戒ニ任スル等人心極度ニ昂奮シ大ニ注意ヲ要スベキ状況ニアリ

三 久良岐郡

全郡ハ横浜市ノ南部ニ接シ其ノ被害モ相当強烈ニシテ今日迄ノ調査ニ依レハ死者一百名重軽傷七二五名住家全潰一、二一二戸半潰二、九九九戸ニシテ殆ト三分ノ二以上ノ倒潰家屋ヲ見ルノ状況ニシテ其ノ内重ナル建造物ハ大岡川村役場全村小学校金沢村小学校及日下村役場等ニシテ其ノ他道路ノ崩壊及橋梁ノ破損等数ヶ所ニシテ其ノ慘害ノ甚大ナルモノ名状スベカラズ又本郡ニ於テモ不逞鮮人カ此ノ非常事変ヲ好機ニ物資ノ掠奪強姦放火ヲ為スノ説熾ニ伝ハリ民心愈々不安ノ状況ニアリ各消防組在郷軍人団等ハ自衛のニ之カ警防ノ任ニ当リツ、アリシ処二日午後三時頃ヨリ追浜飛行

場ノ付近ナル屏風浦、金沢其他隣接村落ニ横須賀海兵団駆逐艦及横須賀航空隊ヨリ海軍兵武装上陸シ之カ警戒ニ当リタル為人心稍安堵ノ傾向ヲ呈シ来リツ、アリ

四 鎌倉郡

全郡ノ被害又甚大ニシテ未タ之カ調査ヲ為ス能ハサルカ鎌倉、戸塚及腰越津ノ各町村ノ如キハ殆ト全滅ノ状況ニアリ殊ニ鎌倉町及腰越津村ノ如キハ数ヶ所ニ火災発生シ其ノ死傷無数ニ達スベキ状況ナルト共ニ其ノ実数ヲ知ル能ハス戸塚町ノ如キハ死者二十七名倒潰家屋三百十戸半潰家屋ハ約九分五厘ニ達シ倒潰家屋ノ重ナルモノハ戸塚小学校役場警察署及郵便局等ニシテ其ノ他鎌倉郡役所及鎌倉警察署ノ半潰等アリテ尚引続キ調査中ナリト雖其ノ被害ノ重大ナルコト予想外ニアリ

五 足柄上郡

全郡ハ被害比較的僅少ニシテ目下詳細取調中ナルモ今日迄概略調査シタル処ニ依レハ死傷三九名倒潰〔半潰〕家屋約七割ノ見込ニシテ特ニ顯著ナル建物ノ被害ナキモ全郡ハ医師ノ欠乏セル為メ之カ救護ニ関シ幾分困難ヲ感シツ、アル模様ナルモ他市郡ニ比シ輕微ナルヲ以テ人心稍安定セル状況ナリ

六 高座郡

全郡ハ他ノ各郡ニ比シ範圍広汎ナル為メ全部ニ亙ル調査極メテ困難ナルカ現在調査シタル処ニ依レハ死傷二九三名倒潰家屋三、二〇九戸半潰一、一四五戸ニシテ其ノ被害ハ決シテ僅少ニアラサルモ幸ヒ火災ノ発生セサリシハ最モ幸トスル処ニシテ目下引繼キ調査中

七 三浦郡

全郡ハ被害又甚大ニシテ目下調査中ナルモ死者五六百名重軽傷者四五千名全潰家屋二百五十戸半潰三百五十戸ニシテ重ナル建物トシテハ浦賀船渠会社工場、三崎警察分署ノ半潰三崎病院及三崎小学校ノ全潰等殊ニ船渠会社ノ被害等ハ最モ大ナルモノトス其ノ他浦賀町ニ於ケル断崖ノ崩壊等ハ数ヶ所ニ及ヒ殆ト全町全滅ノ状態ニアリテ尚引続キ調査中

八 中郡

全郡ノ被害ニ就テハ尚引続キ調査中ナルカ概要調査シタル処ニ依レハ死傷者ハ平塚町約二百三十八名其ノ他ノ各町村ハ約二十名内外ノ模様ナルト共ニ又倒潰家屋モ全戸数ノ二分ノ一乃至六分ノ状況ニシテ現ニ判明セルハ死者四百二十五名重軽傷者数百名焼失家屋十数戸全潰家屋二千八百六十戸半潰二千四百六十六戸ニシテ又震災ト同時ニ各所ニ火災ヲ発生シ其ノ慘状殆ト筆紙ニ尽シ難ク其

レト今時ニ上リ急行列車ハ大磯町高麗山下ニ於テ顛覆シ死者重軽傷者三十数名ヲ出シ又平塚火薬廠ハ爆発ト共ニ火災ヲ発シ其ノ死傷者最モ多数ノ見込ニシテ未タ調査不能ノ状況ニアリ

其ノ他尚被害ノ重ナルモノハ大磯平塚ニノ宮ノ各駅ノ倒潰並相模紡績会社工場ノ倒潰ニ因ル数百名内外ノ死傷之ニ次クニ杏雲堂病院ノ倒潰ニ基ク死亡者二十名内外等ハ最モ顯著ナルモノニシテ尚詳細ハ調査中

九 橋樹郡

全郡ハ川崎町ヲ中心トセル工場地帯ナル為メ其ノ被害モ最モ重大ナルモノ、如クシテ今尚調査中ナルカ今日迄ニ判明セル処ニ依レハ富士瓦斯紡績工場ノ死者約百名重軽傷者二百名ヲ筆頭ニ明治製糖東京電気其ノ他各工場ノ被害莫大ニシテ之カ調査ハ尚今後数日ヲ要スルニアラザレハ之カ調査ヲスル不能其ノ他各町村ノ倒潰家屋ハ約七割以上ニ達シ実ニ慘憺タル光景ヲ呈セルモ鶴見町ハ被害極メテ少ナリ

一〇 愛甲郡

全郡ノ被害又甚大ニシテ震災ト全時ニ各所ニ火災ヲ発シ死者〔傷死者共〕五十七名重軽傷者百数十名焼失家屋二百四十三戸全潰家屋一、〇一八戸半潰二百七十戸其ノ内重ナル建物ハ厚木実科高等

女学校稅務署郵便局役場等ニシテ引続キ調査中

一一 足柄下郡

全郡ハ被害最モ甚大ニシテ各町村ニ亘リ目下調査中ナルカ殊ニ小田原町ノ如キハ其ノ最モ莫大ナルモノニシテ殆ト全町全滅ノ状態ナルヲ以テ死傷算ナク引続キ取調中
以上ノ如キ状況ニシテ之カ被害ハ到底一朝一夕ニ調査スル能ハス殊ニ被害民ニ対スル救済問題ハ焦眉ノ急ナルモ市部ノ救済急ニシテ郡部ニ及ホス能ハス郡部ハ郡長署長町村長適宜協商救済中
尚又前記死傷者中皇族其他知名人士ノ被害者別記ノ通ニ有之候

(注) 別記略。

(四)

大正十二年九月七日現在

九月十日報告

神奈川県郡部〔横須賀市ヲ含ム〕震災状況

臨時震災救護事務局神奈川支部警備部

一 皇族名士ノ死傷

A 皇族

山階宮御別邸ニ御滞在中ナリシ

山階宮妃殿下

薨去

男 爵 園田 孝吉

死亡

藤沢町鶴沼吉村別荘ニ御避暑中ナリシ

相模紡績会社社長 日比谷 長太郎

死亡

東久邇宮師正王殿下

薨去

安田善兵衛夫人

死亡

小田原町小峰御別邸ニ御滞在中ナリシ

陸軍大将 大島義昌 夫人

死亡

閑院宮寛子女王殿下

薨去

代議士 榎山千之助 父

死亡

閑院宮妃殿下

御負傷

前代議士 長谷川 豊吉

死亡

山階宮御別邸ニ御滞在中ナリシ

全 夫人

死亡

賀陽宮大妃殿下

御負傷

子 爵 榎本武憲 令嬢

死亡

藤沢町鶴沼吉村別荘ニ御避暑中ナリシ

全子爵 夫人

負傷

東久邇宮第三王子殿下

御負傷

一 御用邸御別荘損害ノ有無及其程度

B 知名ノ士

一 鎌倉御用邸 全潰

鎌倉町長谷侯爵池田仲持夫人 池田 亨子 死亡

一 鎌倉山階宮御別邸 全潰

全町材木座男爵野崎完義母堂 野崎 テイ 死亡

一 鎌倉伏見宮御別荘 全潰

鎌倉町材木座男爵高橋新次祖母 高橋 鈴子 死亡

一 箱根離宮 外廊破損セルノミ

全町全 伯爵芳川寛次養母 芳川 貞子 死亡

一 小田原御用邸 建物及石垣崩壊ス

全町全 公 爵 松方正義 負傷

一 宮ノ下御用邸 周囲ノ堀及建物半潰ス

貴族院議員 男 爵 松岡康毅 死亡

一 小田原町小峰閑院宮御別邸 全部御潰炊事場ヲ焼燬ス

男 爵 片岡恒太郎 死亡

一 大磯梨本宮御別邸 半潰ス

全 夫人 死亡

一 大磯李王世子殿御別邸 半潰ス

一 葉山御用邸 御車寄玄関約三百坪陥没周囲ノ石垣大半崩壊

所屬建物八棟全潰三十三棟半潰ス

付屬邸 周囲ノ塀破損シ建具類ノ大部分破損セリ

尚右ノ外鎌倉柳原二位局御別荘半潰セリ

一 海嘯及特別崖崩レノ有無及其ノ慘状

(1) 横須賀方面 横須賀市ハ山間ヲ切開キテ市街ト成セルモノナ

ルカ故強震ニ依ル崖地ノ崩潰判ルトコロニ生ジ道路人家ヲ埋没
シ人畜ノ死傷甚シク就中市内港町通りニ於テハ長サ四丁高サ十
丈余ノ断崖ハ中央部十数間ノ厚サニ崩潰シ道路并ニ海軍需品庫
ノ一部ヲ埋メ通行中ノ人車多数ヲ埋没セシモノ、如ク重ナル崩
壊個所次ノ如シ

(一) 市内港町見晴山

長サ四丁高サ十丈余ノ断崖ハ中央部十数間ノ厚サ迄崩潰シテ
道路并ニ海軍需品庫ノ一部ヲ埋メ通行中ノ人車多数ヲ埋没セ
シモノト認ム

(二) 市内諏訪公園下道路

公園ノ断崖長サ二十間高サ五丈崩潰通行人多少ノ埋没アルモ
ノ、如シ

(三) 山王市役所前崖地

人家ノ裏手高サ六丈余ノ断崖崩潰人家二戸ヲ埋没シ死者三名
アリ

(四) 山王町稻荷神社前崖地 高サ十丈長サ三十間ノ断崖崩壊家

屋五戸ヲ埋没シ死者十二三名アリ

(五) 横須賀線裏手崖地

高サ六丈長サ十□間ノ断崖崩潰五戸ヲ埋メ死者六名アリ

(六) 逸見巡查派出所前崖地

高サ五丈巾十三間ノ崖地崩壊五戸ヲ埋メ死者七名アリ

(七) 其他到ル処ノ山崖崩壊死傷アリ調査中又田浦町衣笠村ニ崖

地崩壊ナシ

(2) 浦賀方面

崖崩レ道路ノ欠陥及埋没シタルモノ多大ナルモ被害ノ大ナルモノ
ヲ挙げレバ浦賀町ノ四十ヶ所久里浜村ノ二十ヶ所北下浦村ノ二二
ヶ所等ナリ

(3) 三崎方面 ナシ

(4) 葉山方面

三浦郡西浦村ニ大ナル崖崩アリ其付近県道及海岸ノ一部埋没セル
外下山口ノ山上約三千坪崩壊シテ小兒二名圧死セリ

(5) 鎌倉方面

強震ト全時ニ鎌倉町内材木座由比ヶ浜長谷坂ノ下及腰越片瀬江ノ島方面ハ高サ約三丈ノ海嘯襲来シ為メニ由比ヶ浜海水浴場ニ来集セル者約百名及江ノ島棧橋通行中ナリシ者約五十名ハ何レモ行衛不明トナレリ尚又鎌倉町小袋坂極楽寺ノ切通及稻村ヶ崎一面ニ亘リ崩壊甚シ

(6) 藤沢方面 該当事項ナシ

(7) 大磯方面 ナシ

(8) 小田原方面

強震後直チニ足柄下郡真鶴村岩村一帯ニ海嘯襲来シ真鶴村ノ海浜及岩村ノ一部ヲ洗ヒ去リ家屋及住民ノ被害頗ル多シ箱根外輪山鞍掛山ノ支脈崩壊シ片浦村根府川岩村ハ殆ント全部埋没シタリ塔ノ沢宮ノ下間崖地崩壊国道ヲ埋没シ交通不能当分恢復ノ見込立タズ

(9) 松田方面

海嘯ナキモ付近各町村ニ互リ崖崩レ夥シク住民ニシテ埋没セルモノ多数ニシテ之レカ発掘ニ努メ救出シタルモノ尠カラサレド未ダ発見シ得ザル者約二十名アリ

(10) 厚木方面

全地方ハ海嘯ナカリシモ愛甲郡玉川村煤ヶ谷村及宮瀬村等ニ於テ

ハ其地方山林ニ無数ノ崖崩レアリシカ人畜ニ死傷ナシ只全郡愛川村半原字馬渡ニ於テハ數十丈ノ崖崩レアリ埋没家屋五戸十七名ノ生埋者ヲ出シ二名丈救助セルガ他ハ何レモ悲惨ノ最後ヲ遂ケタルヲ以テ目下発掘中

(11) 伊勢原方面

伊勢原町内崖崩レニケ所アルモ人畜ニ死傷ナシ尚大山町ニモ大害アルモノ、如クナレド目下危険ノ為メ調査不能

(12) 秦野町方面

海嘯ナシ崖崩レアルモ調査中ニ属ス

(13) 戸塚方面

全方面ハ七分通り山間ニアリ崖崩甚シク田畑山ノ如ク凸起シタル個所モアリタルモ崖崩レノミニテ五六ヶ所アリ

(14) 鶴見方面

海嘯ナキモ崖崩レ七ヶ所アリ之ニ依テ家屋ノ倒潰セラレタルモノ一ヶ所一戸ニ過キスシテ惨状ト認ムヘキ程度ノモノニアラス

(15) 川崎方面 該当事項ナシ

(16) 高津中野津田方面

各村ニ於テ山崩レノ為メ戸数八戸倒レ死者十七名ヲ出セリ

(17) 日下方面

久良岐郡日下村字日野崎断崖約二百坪崩壊シ小兒二名死亡シ又金沢村字八沢ニモ約三百坪ノ崩壊アリ十名圧死セリ

一 糧食ノ現在状況

(1) 鎌倉方面

糧食ハ村落ニ於テハ差当リ欠乏スルカ如キコトナキモ鎌倉町ハ在米僅カニ數日ヲ支フルニ過ギザルノ状況ニ在リ目下横須賀鎮守府衣糧課ヨリ白米ノ補給ヲ受ケ居ルモ將來ハ鎮守府ニ於テ関西及朝鮮方面ヨリ米穀其他食糧品ヲ移入シ之カ補給ヲ受クル計畫ニテ目下三菱商事部ニ於テモ鎌倉町ニ対シ不取敢九日頃玄米參百俵外味噌醬油等ヲ多量ニ関西ヨリ商船ニテ輸送シ來ル筈ニテ爾後モ引続キ全部ヨリ輸送ヲ受クル計畫ナリ

(2) 横須賀方面

非常徴収ニ依ル現在食糧約十五日間ヲ支持スヘク尚ホ將來軍艦ニテ関西方面ヨリ搬入配給ノ計畫ナリ

(3) 浦賀方面

糧食ノ現在高ハ今後尚ホ一週間支持スベク將來船艦ニテ関西方面ヨリ搬入ノ計畫ナリ

(4) 三崎方面

当地方ハ火災ナキ為メ各戸ノ在米比較的多ク今後數日ヲ支持シ得ベキモ今後配給ヲ受クヘキ計畫ニ就テハ戒嚴指揮官ノ到着ヲ俟ツテ決定スル筈ナリ

(5) 大磯方面

糧食ハ全ク欠乏ノ状態ニテ現在、地方ノ富豪有力者等ノ寄付ニ依リ配給シ一面米穀ノ廉売等ヲ為サシメツ、アルモ將來配給ヲ受クヘキ計畫等無シ

(6) 小田原方面

現在静岡県地方ヨリ輸入セル糧食ハ今後約十五日ヲ支持スヘキモ未ダ將來ニ属スル配給ノ計畫ナシ

(7) 松田方面

当地方ハ被害モ輕微ニシテ食糧ハ自足ノ見込アリ

(8) 戸塚方面

在米約二十日ヲ支持スルニ足ルモ將來ニ属スル配給計畫ナシ

(9) 藤沢方面

糧食充分ニシテ地方ノ糧食所有者ハ何レモ安価提供ノ状態ニ在リ將來ノ配給ニ困難ヲ感ゼサルベシ

(10) 葉山方面

現在地方在住ノ有力者相諮ツテ救済所ヲ設ケ糧食ノ補給ニ尽メ

ツ、アリ将来ニ於テハ各町村ニ於テ横須賀鎮守府ニ糧食ノ供給ヲ請求シ配給ヲ受クヘキ計画ナリ

(11) 日下方面

糧食ハ相当ノ在庫米其他副食物等アリ差当リ困難ヲ来サズ從ツテ将来ニ於テモ配給ノ計画ナキモ横須賀地方ヨリ避難民逐々増加ノ傾向アルヲ以テ相当考慮中ナリ

(12) 川崎方面

各町村ニ於テ糧食ヲ配給シツ、アルモ将来配給ヲ受クヘキ計画ナシ

(13) 鶴見方面

当地方ノ罹災者ノミニ止マラス東京及横浜方面ヨリ避難民逐々増加ノ状況ナルヲ以テ今後約二週間ヲ支持スルニ足ラズ将来配給ヲ受クヘキ計画ナシ

(14) 都田方面

被害輕微ニシテ糧食憂ナシ

(15) 高津方面 全上

(16) 溝方面 全上

(17) 厚木方面

現在郡農会ヨリ罹災民ニ対シ糧食ヲ配給シツ、アルモ将来不足

ヲ感スル虞アルヲ以テ目下其ノ計画ニ付考慮中ナリ

(18) 中野方面
糧食ノ憂ヒナシ

(19) 秦野方面

在米僅カニ二日ヲ支フルニ過キズ将来ノ配給方法ニ就テハ町村会ヲ召集シ協議中ナリ

(20) 伊勢原方面

糧食ノ憂ヒナシ

(注) 収録部分中の数表、目次等略

(「震災状況報告」西坂勝人氏蔵)

三五 三浦郡下被害概況

号外

大正十二年九月三日

三浦郡長

各町村長殿

震災被害状況ノ件

今回ノ震災被害概況別記ノ通りニ有之候

記

一 被災区域

東京神奈川千葉静岡山梨等関東地方一帯ナルモノ、由ナリ

一 横浜市ハ本牧ヲ除ク外大部分火災ノ災害ヲ受ケタリト云フ

一 東京市モ本所深川日本橋京橋芝神田等ニ涉リ大部分火災ノ災害ヲ受ケタリト云フ

一 横須賀市ハ若松大滝小川旭町元町山王諏訪中里深田観念寺〔以

上火災ノ被害ヲ受ク〕汐入汐留公郷等被害激甚公郷ノ内曹源寺佐野不入斗□方面ハ稍々輕シ死亡者数百名アル見込ナリ

長井村ノ被害ノ概要

一、死者九名 負傷者四名

一、家屋全潰一四〇戸 一、半潰六〇〇戸

一、浸水 床上二〇戸 床下三〇戸 合計七八〇戸

被害激甚 一、火災ナシ 一、学校校舍全潰

武山村ノ被害概要

一、死者八名 一、負傷者十四名 一、畜不明

一、家屋全潰七、八十戸 一、半潰約百五十戸

一、火災ノ有無 無シ

一、学校ハ旧校舍全潰 職員間異状 一、浸水家屋ナシ

西浦村

一 死者 約五名

一 傷者 不詳

一 家屋ノ倒潰 全潰数十戸 半潰其ノ他不詳就中秋谷部落殊ニ激甚 学校全潰

一 道路ノ破損 亀裂ヲ生セシ箇所多ク通行ニ差支ナキモ大崩ハ通行甚タ困難危険

葉山村

一 死者 約三十有余人

一 傷者 不詳

一 家屋ノ倒潰 全潰約二百戸 半潰七百余戸

学校大破ナク一色及堀内ノ一部分破害激甚御用邸其(マ)他各宮家ノ被害甚タシカラス

一 火災 全焼四戸

一 道路ノ破損殊ニ甚タシク殊ニ

逗子町

一 死者 約五十名

一 傷者 不詳

一 家屋ノ倒潰 不詳ナルモ葉山村ヨリ被害甚タシク殊ニ逗子激甚

ナリ学校役場全潰学校教員一名死

ナリ学校役場全潰学校教員一名死

- 一 火災 二戸
- 田浦町
- 一 死者約五十名〔陸兵部ハ別ニシテ無数〕
- 一 傷者 不詳
- 一 家屋ノ倒潰 殆ント全部ニ涉リ倒潰甚タシク殊ニ船越ノ全部田浦ノ一部分等激甚逗子町ヨリモ被害甚タシ各学校全部半潰役場全潰
- 衣笠村
- 一 死者 ナシ
- 一 傷者 不詳
- 一 火災 ナシ
- 一 家屋倒潰 二十七戸
- 一 道路破損 通行困難ナル個所ナシ
- 一 学校役場共 差シタル被害ナシ
- 浦賀町ノ被害概要
- 一、死者約百五十名 一、重傷者約百名 一、軽傷者無数
- 一 家屋 全潰約五割 半潰其ノ他殆ト全部 東西兩岸特ニ甚ダシ
- 一 火災 荒巻及大ケ谷両町ヨリ出火約三十戸並ニ船渠会社工場ノ一部焼失ス
- 一 救護法
- 浦賀町役場共榮館東林寺法幢寺常福寺ノ五ヶ所ニ避難所ヲ設ケ炊出シ救護シツ、アリ
- 二 久里浜村
- 一 死亡者約二十名 重軽傷者不明
- 一 家屋全潰二百五十戸半潰其ノ他一般
- 一 役場全潰事務所ハ役場前商店ニ執務ノ予定
- 一 学校 大部分破損シ当分休校ノ予定
- 一 被害者ハ村民相互ニ食糧等融通シツ、アリ
- 三 北下浦村
- 一 死者十名 他行シ不帰ノ者四名 重傷者三四十名
- 一 家屋 全潰百五十戸 半潰百四十五戸
- 一 倉庫 全潰十五戸 半潰二十一戸
- 一 付屬家 全潰八十七戸 半潰四十四戸
- 一 社寺寺院 全潰五ヶ寺半潰三ヶ寺
- 四 南下浦村被害概要
- 一 死者十一名 重軽傷者不明

一 家屋全潰百戸 倉庫三十戸

一 付属家及居宅半潰等ハ甚ダ多ク数不明

一 罹災者ハ部落相互ニ救護シツ、アリ

一 学校 松輪小学校上宮田分教場ハ全潰シ尋常高等小学校又一
部破損ノ為十日間位休校ノ予定

五 三崎町被害概要

一 死者約五十名重傷者百名以上ニ上ル

一 家屋ハ殆ド全潰又ハ半潰ノ状ナルモ戸数等未ダ不明就中西野
及花暮殊ニ甚ダシ

一 役場及学校ハ半潰ノ状ニシテ学校ハ当分休校ノ予定ナリ

一 救護所 三崎小学校内及全町台ノ二ヶ所ニ避難所ヲ設ケ医師
全部出所役場員ト協力罹災者ノ救護ヲ為シツ、アリ

六 初声村被害概要

一 死者九名重傷二名軽傷無数

一 家屋全潰約百戸半潰一般付属家約二百戸全潰

一 寺院二ヶ寺、神社一社全焼

一 下宮田湾ノ堤防大破シ海水増サバ〔目下二日共干潮ノ状〕水
田五十余町歩全滅スベク憂慮セリ

一 県道ノ破損甚シク里道ハ高田坊部落ニ於テ大破セリ

一 役場ハ大ナル破損ナク事務執行ニ差支ナシ

一 校舍全潰シ当分休校ノ予定ナリ

一 罹災者ハ近隣者相互ニ救護シ合ヘリ

(三崎町役場「震災関係書類」(大正二年)三浦市役所蔵)

三五 鎌倉郡下震災調査報告

知事

郡長

震災ニ関スル報告

一 被害詳況

本郡ノ震災ハ他郡市ニ比シ激烈ナルモノアリ東海道ヲ劃シテ南
方海岸ニ近クニ從ヒ一層甚ダシキモノアルヲ見ル就中鎌倉町及
腰越津村ニ於テハ数箇所ニ火災ヲ起シ商業地区焼失セラレ鎌倉
及片瀬ニ在リテハ丈余ノ海嘯襲来シ水火并ヒ臻リタル為メ一家
族全滅シタルモノ尠カラズ慘状見ルニ忍ビザルモノアリ海嘯ノ
為メ電信柱ノシモク浮上シタル一女ノ言ニヨレバ海嘯襲来ノ際
由比ヶ浜ニ徘徊シ居リタル百名内外ノ人ハ海嘯ニ没ハレタルモ
ノ、如シト又片瀬江ノ島間架橋ハ海嘯ニヨリ墜落シタル為メ偶
々橋上ヲ通行シ居リタル数十名モ溺死シタリト謂フ郡内家屋人
口ノ被害左ノ如シ

(欄外注記) 別紙報告按一部為御参考及送付候也

町村 藤沢警備隊 葉山司令官 鎌倉分隊 警察署 中隊長
松方公

震災ニ関スル調査表(一)

鎌倉警察署

種別	家				屋				人	
	総戸数	倒壊戸数	同上棟数	倒壊戸数ノ対スル百分比	焼失戸数	焼失棟数	焼失戸数ノ対スル百分比	死	傷	
町別	四、三〇〇	三、九五四	四、七七八	〇・九七四	七三三	八五三	〇・二八五	三九二	一、七七七	
村別	六三五	五五〇	一、二五〇	〇・八六五	一	二	〇・〇〇五	二	二	
鎌倉町	三五五	七四	八四	〇・二〇九	—	—	—	五	〇	
小坂村	三七	一五七	二〇七	〇・四〇八	—	—	—	一五	三	
玉繩村	七二	二八〇	三六	〇・三九五	五	四	〇・〇〇八	三九	七	
川口村	八七二	五二八	六三	〇・五八〇	二七六	三六八	〇・五三六	五八	一六	
津腰村	三三	一四三	二二	〇・六九〇	—	—	—	六	五	
村岡村	七、七四四	五、六六五	七、七三九	平均 〇・七三七	一、〇一六	一、二二六	平均 〇・一七六三	五五	二、〇二五	
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

備考 外ニ由比ヶ浜ニ於テ行方不明者約一〇〇名及江ノ島棧橋ニ於テ約五

〇名又海嘯ノ為メ鎌倉町ニ於テ流失セル戸数七十七戸

〔九月十三日調査スルモノトス〕

震災ニ関スル調査表(二)

戸塚警察署

種別	家				屋				人	
	総戸数	倒潰戸数	全上棟数	倒潰戸数ノ対スル百分比	焼失戸数	焼失棟数	焼失戸数ノ対スル百分比	死	傷	
町別	九二五	六四四	一、四四六	〇・七七七	—	—	—	三二	三五四	
村別	四四七	三〇	五五六	〇・八五〇	—	—	—	三	一四	
戸塚町	四七	三〇	五五六	〇・八五〇	—	—	—	三	一四	
川上村	四七	三〇	五五六	〇・八五〇	—	—	—	三	一四	
瀬谷村	五八五	二二三	五〇三	〇・三六〇	—	—	—	一	一七	
中村	七六七	五七七	九三	〇・六七六	三	二〇	〇・〇〇四	一一	一六	
田村	四七	三七	二六四	〇・六五一	—	—	—	五	五	
大正村	四七	三七	二六四	〇・六五一	—	—	—	五	五	
本郷村	五五	四〇七	八〇	〇・七五	—	—	—	一六	三	
豊田村	三七〇	一〇一	一〇	〇・七三	—	—	—	二	四	
永野村	一八六	一四	一八	〇・五九	—	—	—	〇	二	
中川村	六三三	三七	八〇	〇・五〇	—	—	—	一〇	三	
計	四、八九九	三、〇一九	五、六六六	〇・七四	三	二〇	〇・二一七	六四	二、四六六	
合計	二一、四三三	八、六六五	二、〇一五	〇・七四	一、〇一九	一、一八六	〇・二一七	六四	二、四六六	

(注) 表(一)の「合計」欄は(一)と(二)の合計

著名ノ被害者ハ既報ノ如ク山階宮妃殿下ノ御即死賀陽宮大妃殿下ノ御負傷及松方公ノ負傷ナリ戸塚町役場倒壊シ且ツ山崩ノ為メ町長収入役建築技手小使ノ四名埋没死亡シ鎌倉町役場ニ於テ

ハ震後吏員一名ピストル誤発ノ為メ死亡シタル外ハ村長以下数名ノ吏員輕傷ヲ負ヒタルノミニシテ郡町村吏員無事ナルヲ得タリ

被書家屋ノ主ナルモノハ郡庁舎、建長寺、円覺寺、鎌倉八幡宮、樓門、拜殿〔兩寺ハ山門其他付屬建物ノ一部ヲ存スルニ過キス〕国宝ハ大破損ナシ〕戸塚小学校、鎌倉小学校及女学校、町役場倒壊ス。鎌倉宮ハ小破ニ止ル

二 警備

震災直後京浜地方ヨリノ避難者ニヨリ流言蜚語相伝ハリ人心恟々タリシヲ以テ警察署長ト協議シ自衛團ヲ組織シ民心ノ安定ニ努メ一面出兵ヲ要求シタルニ間モナク警備隊ノ守備スルトコロトナリタル為メ人心漸ク安堵シ今ヤ全ク平靜ニ帰セリ中ニハ軍隊引揚後失職者等ニヨル強窃盜ノ徘徊ヲ杞憂スルモノアリモ現狀頗ル平穩ナリ

三 傷病者ノ救護

藤沢地方警備隊司令官指揮ノ下ニ戸塚、鎌倉、町片瀨ニ軍医ヨリ成ル救護班ヲ置キ地方医師團ト共ニ傷病者ノ施療ニ努メツ、アル外片瀨ニ於テハ千葉医專外科ノ大家三輪博士等偶々同地滞在中ナリシヲ奇貨トシ是又施療所ヲ開始シ相俟テ診療ニ従事シツ、

四

アル為傷病者ノ救護上遺憾ナク一般ニ之ヲ徳トシ居レリ近日中赤十字社、神奈川県支部ニ於テモ鎌倉方面ニ活動ヲ開始スルニ至ルベキヲ以テ軍隊引揚後ト雖モ施療治療上間然スルトコロナカルヘシ

食料品ノ配給

火災ノ為メ鎌倉腰越等ノ商業地区ニ於ケル物資ハ焼失シ藤沢、浜方面ヨリノ配給杜絶スルニ至リタル為メ該地方及戸塚町ニ於ケル住民ハ糧食欠乏シ物情騒然タルモノアリシガ付近農村及大船ニ停車セル貨車中ヨリ徵発シタル糧米ト横須賀海軍鎮守府ヨリ融通ヲ受ケタル米麦ニヨリテ小康ヲ得次デ徵発ノ余裕ナキニ至リタル折柄本月横濱ヨリ糧米約千五百石ヲ汽車輸送シ配給シツ、アルヲ以テ是等ノ地方ニ於テハ食糧難ノ杞憂ヲ一掃シ民情安定スルニ至リタリ本郡ハ京浜地方ニ接近シ居ル為メ避難者陸續襲来シ総人員二万六千余人ニ及ベリ之カ為メ農民ハ余剩ナキ糧米ヲ侵食セラレ恐慌ヲ来スニ至リタルヲ以テ郡吏員ヲ派シ町村民ト共ニ村内貯米者ヨリ徵発シ之等避難民及貧困者ノ救護ニ充タリ之レガ為本月十五日迄ノ徵発米ハ□□石ニ及ベリ現下食料品ノ配給ハ漸ク円滑ニ向ヒツ、アルヲ以テ米ノ徵発ハ本月十六日以降ハ郡ニ於テ統一シ容易ニ令狀ヲ発行セザルコトニセ

リ

配給ノ方法ハ区长又ハ農区総代其他部落民ノ代表者ヲ介シテ避難民及貧窮ニシテ購買資力ナキモノニ限リ施米スルト共ニ資力アルモノニ対シテハ後日相当価額ヲ徴スヘキ旨ヲ告ゲ供給スルト共ニ私下先数量等ハ施米ノ分ト共ニ記帳整理シツ、アリ
鎌倉町ニハ三菱商會社ノ幹旋ニテ曩ニ江尻ヨリ白米三百俵移入セラレ今亦阪神地方ヨリ一千三百俵余ト味噌醬油其他ノ雜貨到着シタルヲ以テ当分糧米欠乏スル虞ナシ

五 交通

道路橋梁ノ破損セラレタルモノ尠カラス一時ハ国道県道共交通杜絶ノ状態ナリシカ工兵隊ノ努力ニヨリ青年団協力ノ下ニ国道一号线県道藤沢鎌倉線修理セラレ藤沢停車場江之島線大船戸塚線ハ仮修理ヲ了ヘ自働車開通スルニ至リ横浜鎌倉線戸塚厚木線亦二十日迄ニ竣成シ戸塚町田線モ本月中ニハ開通ノ見込ナリ

六 衛生状態

鎌倉町ニハチフス赤痢患者合シテ十一名発生シ内四名死亡セリ之ヲ例年ニ比スレバ患者数稍々多キカ如キモ震災ニ関連シ患者ヲ隠匿スル途ナキ為患者ノ全部発見セラレタルニ過キズシテ格別ニ蔓延ノ兆ナシ其他ノ町村ニ在テハ衛生状態良好ナルモ識者

七

建築材料及復興事業

中ニハ将来ヲ怖ル、モノ多シ鎌倉町ニ於テハ伝染病ニ備フル為メ衛生班ヲ新設シバラツク式避病舎ヲ仮設スル等防圧上遺憾ナキヲ期シツ、アリ
避難所トシテ各人自営ノ仮小屋ヲ建設シツ、アル外鎌倉町ニ於テハ一軒百坪ノ共同避難所ヲ三ヶ所ニ設営スルノ計ヲ樹テ内一ヶ所ハ工兵隊ノ手ニ依リ完成ニ近シ塗炭其他ノ建築材料ハ三菱商會社ノ尽力ニ依リ阪神方面ヨリ搬入セラレツ、アリ尚同町ニ於テハ震災復興委員會ヲ組織シ町會議員町公民中ノ主ナル者ヲ委員トシ町ノ復活ヲ劃策シ居レリ

八

地方民ノ美事

瀬谷村ニ於テハ村内ノ主ナル者胥謀リ約一千円ヲ醸出シ本郷村ニ於テハ村内有志ヨリ玄米二三俵乃至十四五俵ヲ寄付シ貧困ナル被害者ニ分配シ鎌倉町川口村ニ於テハ町村内ノ有力者ヨリ町村宛又ハ各区宛金員ヲ寄贈スルモノ多ク鎌倉ノミニテモ現金ノ總額十萬円ニ近キカ如シ

以上

状況調査書

1	寄付者ナキヤ	鎌倉町	深沢村	大正村	金員、衣類、食料等ノ寄付者多シ	ナシ	ナシ	安定セリ	一〇、自衛団ノ組織
2	米ノ配給組織				各区長ニ於テ夫々各戸ノ人数ニ応シ玄米ニ合ツ、ノ割ニテ配給ス	他町村ヘ七十四石ヲ配給ス村内ニテ四十八石ヲ配給ス	記事ナシ	安定セリ	一一、伝染病予防特別施設
3	交通状態				目下小袋坂ノ崩壊ケ所ノ切開ヲ急キツ、アルニツキ二三日ノ内ニ交通自由トナルベシ	目下鎌倉藤沢間県道ノ破損ケ所修理中ニ付出来ノ上ハ自動車ノ交通自由トナルベシ	諸車ノ交通容易ナリ	安定セリ	一二、民心安定ノ有無
4	傷病者ノ手当				鎌倉医師団ノ救護所等ニテ極力救護ニ努ム	記事ナシ	全上	安定セリ	一三、軍隊警備ノ有無
5	自衛団ノ組織				軍隊ノ到着マデ夜警ヲナシタルモ其後ハ軍隊ノ警備ニ委ス	全上	全上	安定セリ	村内ヲ時々巡察セラル
6	伝染病予防ノ施設				特記事項ナシ	全上	全上	安定セリ	村内ヲ時々巡察セラル
7	民心ノ安定ノ状況				食料殊ニ米ノ補給潤沢トナリタルコト軍隊ノ警備トニ依リ漸次安定ニ帰ス	漸次安定ス	全上	安定セリ	村内ヲ時々巡察セラル
8	軍隊ノ警備状況				海軍陸軍一致シテ各出入口タル道路側ニ歩哨ヲ立テ警戒ス	歩四九連隊ノ一少隊警備ノ任ニ当ル			村内ヲ時々巡察セラル

第3章 関東大震災

調査要項

要項	町村名	豊田村	本郷村	小坂村及玉縄村
一、米ノ配給組織	一、米ノ配給組織	米ハ貧困者ニシテ米ナキモノニ対シ一日一人ニ付二合五勺二十五日分ヲ各部落区長宅ニ集合セシメ吏員立会ノ上配給セリ	豊田村ト全シキ貧困者ニ各区長ヲシテ吏員立会ノ上一戸ニ対シ一斗乃至二斗宛配給セリ 又寄付米ハ通行避難民及極貧者ニ施米セリ	一、米ノ配給組織 一部ハ通行避難民ニ対シ施粥施米ノ方法ヲ以テ大部分ハ各部落内貧困ニシテ米ナキモノニ一人ニ付三合位宛三日乃至七日分宛配給セリ
一、交通ノ状況	交通状況良好ニシテ村道以上ハ車馬荷積車ノ通行容易県道以上ハ自働車ノ通行容易主トシテ工兵第十六大隊修繕ニ従事セリ	豊田村ニ全シ	豊田村ニ全シ	豊田村ニ全シ
一、傷病者ノ手当如何	三人ニシテ軽症ナリ各自村内ノ医師ニ付治療中ナリ	六人ニシテ豊田村ニ全シ	約八十名ニシテ仲々ニ重症ナルモノ二、三あり村医及各部落落医師ニ付各自速ニ治療ヲ講セシメ尚鎌倉町ヨリ諸戸邸ニアル救護班ノ出張ヲ請ヒ治療中ナリ	消防組青年団ノ援助ニヨリ毎日毎夜数人宛警戒中ナリ
一、自衛団ノ組織如何	自衛組合(警察管下ニヨル)既設ノモノハ青年団消防組等ニヨリ毎夜毎日数人宛警戒中ナリ	豊田村ニ全シ今後継続ノ見込ナリ	豊田村ニ全シ	豊田村ニ全シ
一、伝染病予防ニ関スル特別ノ施設アリヤ否ヤ	特別施設ナキモ数戸毎ニ会同シテ井戸替へ汚物ノ焼却ヲ励行シ尚倒潰セルモノニアリテハ取片ノ上清潔ニ厳重留意セリ当秋季清潔検査ヲ線上施行ノ予定伝染病ノ発生ナシ	豊田村ニ全シ 目下一人アルモ近ク退院ノ予定	豊田村ニ全シ 伝染病ノ発生ナシ	震災当時ハ食料ノ欠乏ニヨル不安ト鮮人ノ暴行ニ対スル恐怖ノ為且ツ通行避難者ノ言
一、民心ハ安定セルヤ否ヤ	安定セリ	安定セリ	安定セリ	安定セリ

<p>一、軍隊警備ノ状況如何</p>	
<p>配備ナシ今後モ必要ナカララン</p>	
<p>軍隊ハ49連隊九月十日頃ヨリ六名役場ヲ中心トシテ配備セラレタルモ今後其ノ水継ノ要ナシ</p>	
<p>等ニヨリ随分危険ノ状態ナリシモ配給ノ潤沢ト兵備ノ敵ナルニヨリ稍安定ヲ得ルニ至レリ</p>	<p>軍隊ノ配備ハ九月四日海軍六名小坂村戸部へ来リ六日引上ト全時ニ49連隊ノ一ヶ小隊配置サレ大船駅付近ニ駐屯シ其ノ後一小隊ヲ増加シ九月七日ニハ台〔役場付近〕へ兵士八名ヲ分遣シ又十四日頃ヨリ十二名トナレリ目下警備中 今後当然必要アリ但シ大數ハ其ノ要ナシ</p>

(鎌倉郡役所「震災庶務書類」(大正一二年) 神奈川県庁蔵)

三 震災後の社会経済状態に関する県知事安

河内麻吉の報告(一)

(二)

報告候也

一 一般民心ノ傾向

高秘発第八号
大正十二年九月廿日
神奈川県知事 安河内麻吉

内務大臣子爵 後藤新平殿
震災後ノ民心及経済財政ニ及ホシタル影響ニ関スル件
標記ノ件ニ関シ調査方電報照会ノ件大略左記ノ通ニ有之候条此段及

県下ノ震災ニ依ル一般民心ノ傾向ハ其ノ災害程度余リニ甚大ナリシ結果一時ハ殆ント呆然自失ノ状態ヲ呈シ市民ノ半数ハ或ハ帰郷シ或ハ縁故ヲ辿リ避難退出セルモ月ヲ経ルニ從ヒ漸次個人又ハ市トシテ復興セサルヘカラサルヲ感得シ各個人及町内ノ者寄合協議シ焼跡ノ共同片付ケ及復興会等ノ組織ヲ計画シ又貿易商ハ横浜港ノ生命タル蚕糸ノ輸出ニ着手セムトシツ、アルヲ以テ人心安定ニ近ツクト共ニ之カ復興ニ努力スルモノ、如シト雖モ一部市民ハ資